

## 国交省・インフラ優秀実践事例

# 県コンクリート

# 診断士会を選出

県コンクリート診断士会は  
このほど、国土交通省が社会

メンテナンス「グッド・プラク  
ティス」に選ばれた。

資本の維持管理・更新を支え

グッド・プラクティスは、

る工夫や活動の優れた実践事

2012年の中央自動車道笹

例を取りまとめたインフラメ

子トンネル（山梨県）天井板

崩落事故で社会資本の安全性  
に注目が高まる中、インフラ  
メンテナンスの理念の普及・  
啓発を図ろうと、国交省が昨  
年12月から実践事例を募集し  
た。維持管理・更新を支える  
優れた工夫▽インフラを支え  
る活動▽技術開発―の3分野  
で計46事例を選び、公表した。

県コンクリート診断士会は

自治体との連携など地域密着

の活動を進めており、応募し  
たグッド・プラクティスでは  
インフラを支える活動で選ば  
れた。コンクリート診断士は  
公益社団法人日本コンクリー  
ト工学会が認定する資格で、  
橋やトンネルといった既設の  
コンクリート構造物の劣化の  
状況を診断して維持・補修の  
提案などを行う。

県コンクリート診断士会は

04年に設立。立ち上げ時に13

人だった会員は現在、建設や  
コンサルタント、官公庁など  
多様な分野の114人に増え  
た。これまで県や市町など地  
元自治体に対し、橋の長寿命  
化計画策定委員会に委員を派  
遣したり、点検マニュアル策  
定に当たって助言したりと、  
技術支援の実績を重ねてき  
た。診断士自身のレベルアッ

プを図るため、研修会も定期  
的に開いている。

県コンクリート診断士会の  
石川裕夏会長は「コンクリー  
ト構造物は、材料や自然環境  
の面など地域性が強い。地域  
のインフラの維持管理は地域  
の診断士がやるべきだという  
理念で、引き続き活動してい  
きたい」と話している。

（水口浩樹）